

令和5年度 中城御殿跡地整備検討委員会（第2回）議事要旨

日時：2023年12月20日（水）10:00～12:00

場所：沖縄県市町村自治会館 4階 第5・6会議室

1. 第1回委員会の振り返りと委員会後の進捗報告

- 上之御殿エリアは、以前の委員会では、令和5年度より工事着手、令和7年度公開と確認したと思う。本日の資料では令和8年度公開になっているが、スケジュールを変更したのか。（委員）
 - 前回委員会後の検討で、部分公開時の安全確保について意見があったこと、また、上之御殿エリア周囲の石積み遺構への配慮等といった課題が残っているため令和8年度公開としている。（事務局）
- 修復室は設けない方向と説明があったが、それでよいか。（委員）
 - 首里城火災で被害を受けたものは財団の修復室を使う方針があり、市の国宝等資料も外部で修復を行っているとのことで、中城御殿には設置する必要がないと確認した。（事務局）
 - 修復施設については、将来的には総合的に考えていく必要があるが、今回の中城御殿には修復室を作らない方向性とする。（委員）
 - 那覇市の国宝を常設展示・収蔵するといった方向転換があり、修復室は面積的にも機能的にも難しいため、今回なくなることは理解する。しかし、県としては修復の技術継承や人材育成を含めて検討していただきたい。（委員）

2. 御内原・表御殿西側エリアの検討

■中城御殿の施設設置の目的

- 中城御殿の位置付けを明確にすることが大事である。中城御殿はどういう人をターゲットにするのか。首里城来訪者をはじめ、地元の首里の人や那覇市民が多いと想定されるが、それを明確にしないと集客が難しくなるのではないか。（委員）
- 尚家資料が常設展示されることに関して、中城御殿の役割としてきちんと位置付けたほうがよいのではないか。（協力委員）
- 当初、中城御殿は首里城城郭内の収蔵品を移すことが主目的だったが、尚家資料が入ることで、施設の位置付けが違った重みを持つようになった。城郭内の展示収蔵の議論にも影響する。（委員）
- 尚家資料が元あった中城御殿に戻ったという形になる。その辺りを強調しつつ、首里城についてもあわせて進めることを踏まえて、文章を練りなおしてほしい。（委員）

■遺構保護を踏まえた床レベルの設定

- 床レベルの設定については、御内原エリアの外観がかなり高くなり往時の姿からは変わってしまうが、展示収蔵機能をここに位置付けている以上、これ以上の建築的な解決は難しいだろうということで理解している。（委員）

■平面計画および利用動線計画

- 近年整備された博物館は地下に電気・機械室を設けたものが多く、豪雨等で浸水したり、地下駐車場が水没したりという事例もあるので十分注意してほしい。(委員)
 - 電気・機械室は直接外からは入らないが、機械の搬入経路としてドライエリアがある。その部分に水が入らないよう配慮したい。(事務局)

■中城御殿の防災・防火対策

- 現在の計画では、健常者の動線は多いがバリアフリー動線が1箇所しかない。高齢者、障害者は他の方よりも避難に時間がかかるため不安がある。床レベルが上がったことで、完全に建物の外に出ることと敷地外に出ることの両方の障壁となっている。(委員)
 - バリアフリー動線は、現在、一番フラットな正門側1箇所となっている。脇門に関してはかなり高低差がありバリアフリーは難しいが、副門側で確保できないか、外構計画も含めて検討する。(事務局)
- 博物館では全館燻蒸を行うと思うが、中城御殿ではどう考えるか。全館燻蒸は、多くの人が出入りするところから虫の進入を防ぐ目的で行うものである。施設の密閉性が必要となり、また、燻蒸期間中は館を閉館するため、管理運営にも影響が出てくる。(委員)
 - どこまでを燻蒸するかも含めて検討してほしい。(委員)
 - 他の施設の事例も参考に検討したい。(事務局)
- 防犯面の検討はどのようにされているのか、次回ご説明いただきたい。(委員)

■外装材の仕様に関する方向性

- 天然木と人工木は風合も違う。クリアすべきことも多いと思うが、天然木活用の案で進めていただければと思う。(委員)
- 人工木を候補とした目的は耐火性を高めるためか、往時の天然木が入手しづらいためか。(委員)
 - RC部分は耐火性能を上げるために外装材は不燃仕様を基本とすることを当初の方針としていたが、外観の再現性に難があるため、天然木を提案している。(事務局)
 - 部会では、不燃木と人工木をまず検討した。不燃木はP3白華現象があり景観上よくないのと同時に、定期的に張替えが必要となるなど、維持管理面に難があるということで、選択肢から除外した。人工木は、一般的な建築材料としてはデッキなどに使うもので、自己消火機能はあるが、目的とした耐火機能は期待できるほどでもなかった。他方、天然木は燃えるが、外装のみなので燃えている時間は短く、ほかの防火対策と一緒に用いることで総合的な防火は可能と考えられる。また、天然木の利点は細やかな表現ができることで、圧倒的に景観に優れているという結果となった。(委員)

■建物の屋根形状・高さの検討

- 表御殿を撮影した古写真は多いが、御内原エリアは非常に少ない。再現性の根拠をどこに持つか考えると、複雑な屋根の重なり的美しさが中城御殿の特徴となる。上之御殿から見て美しい重なりがあること、また今回の増床で陸屋根ができたことで不自然な納まりが生じてしまうことから、軒を連続して見せることを優先した結果、高屋根案となったのが部会での検討経緯である。表御殿西側エリア（御配膳所）についても、高屋根でつなぐ例はあまりないが、平屋根にするのは景観上問題があり、全体的な良さを表現したいと考えた。
（委員）
- セントラル空調の設置位置は、提案の位置でよいと思うが、できるだけ見えなくするよう、実際の施工の際に現場で細部調整をお願いしたい。（委員）

■将来増築部分(表御殿東側エリア)について

- 表御殿東側エリアは、当分の間何もない空間となるが、その見せ方はどう考えているか。
（委員）
 - 当面平場になるが、地域の人も使える空間になると思う。仕上げや表示については今後とも検討していきたい。（事務局）

3. 龍潭周辺の整備について

■龍潭周辺の階段整備

- 松崎広場は今後イベントなど様々な活用がなされると考える。そのとき、階段は直線的に広場にあがってくるのがよいのか、迂回させて脇から上がる形のほうがイベント時の通行等に干渉しないのか、今後検討してほしい。また手すり柵がつく場合も、景観配慮についてよく検討をお願いしたい。（委員）
 - 階段位置については再度、検討したい。手すりについては右側の木製手すりがすでに設置されているので、その調和も考えながら検討していきたい。（事務局）
 - 中城御殿側から龍潭を見た古写真は多く、景観はかなり重要である。松崎馬場広場からストレートに階段はなかったのではないか。古写真で階段が見えないのであれば、もつと端に寄せて整合を図ったほうがよいと思う。（委員）

■龍潭周辺のトイレ整備

- 公園として考えるとトイレは必要だろうが、松崎馬場の一番目立つところにトイレがあるのはいかがか。利用上必要としても、歴史的風致とのすり合わせはどうあるべきか。（委員）
- 首里八景にも詠まれた風景という視点からみたときには、景観上影響が出ると思われる。
（委員）
- 植栽や景観をなるべく阻害しないようにということも含めて、検討していただきたい。（委員）

■龍潭線の中城御殿前区間の整備について

- 石畳から石粉風舗装に変更する提案だが、「石粉風」という表記が気になる。具体的イメージを伺いたい。(委員)
 - 最近、龍淵橋からトーチカにむかって行く園路を整備しており、その舗装を想定している。(協力委員)
 - 綾門大道の舗装でも、往時の「香粉道」を当初は考えたが、多くの人が行き交うため、耐久性や透水性を考慮し今のような舗装になっている。中城御殿前でも同様の耐久性などの問題があるだろう。(委員)
- 中城御殿前だけでなく龍潭側も同じ舗装にしたほうがよいのでは。将来的に世持橋を再現した場合、今の四角い石畳敷は世持橋に合わないと思うので、往時の雰囲気を出すためにも、龍潭側も中城側に合わせて石粉舗装にした方がよい。(委員)